

「無視覚流」まちあるき

きで知る北斎と隅田川

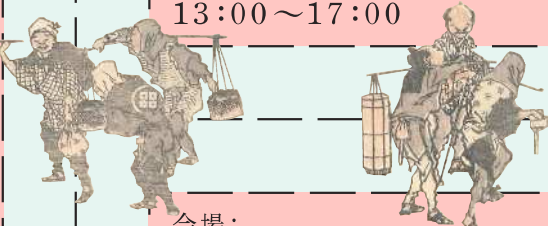


狂歌絵本「絵本隅田川 兩岸一覽 中 無縁の目中」(部分)



江戸のころには「大川」と呼ばれた今日の「隅田川」。すみだの地で生涯のほとんどを過ごした葛飾北斎も、水辺の景色に目を向け、川にかかる橋や往来する船、涼を求めて集う人々を描きました。そして晩年には、隅田川に臨む牛嶋神社の近くに暮らして、絵馬「須佐之男命厄神退治之図」を奉納しています。今回は、そんな北斎の足跡に思いを馳せながら、「無視覚流」の先達、広瀬浩二郎さんと隅田川の界限を歩き、船に乗って川面から、いまの隅田川の姿を捉えていきます。視覚に頼らず、聴覚や嗅覚、触覚を働かせて、水音や鳥の声に耳を澄ませ、潮の匂いに海を感じ、波にたゆたう船の上で自らの感覚をひらいていくワークショップです。あわせて、北斎作品に表された隅田川兩岸の風景や「橋の博物館」とも称される隅田川の多彩な橋のかたちについて、さわれる資料を用いながら、そのおもしろさを発見し参加者相互に伝え合う機会としていきます。東京2020オリンピック・パラリンピックを経た共生社会の実現に向けて、「視覚を使わない」ことで感じる世界を広げ、他者との差異を超えたコミュニケーションをはかる試みです。どうぞご参加ください。

日時：2018年
11月4日(日)
 13:00～17:00



会場：
 牛嶋神社(集合)、
 隅田公園、屋形船@隅田川、
 すみだリバーサイドホール

主催：墨田区
 企画運営：公益財団法人墨田区文化振興財団
 協力：「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会、
 すみだ北斎美術館

